

## 自己評価報告書

平成 23年 4月 25日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520361

研究課題名 (和文) 否定関連現象の形式意味論研究一時・量化・取り立てに焦点を当てて

研究課題名 (英文) Formal Semantic Research on Negation Related Phenomena

## 研究代表者

楠本 紀代美 (KUSUMOTO KIYOMI)

関西学院大学・文学部・准教授

研究者番号：50326641

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：形式意味論、否定、英語

## 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、これまであまり否定と関連づけられてこなかった現象にも着目し、その意味解釈や相関関係を考察することにより、否定とその関連現象の双方の意味を明らかにすることである。取り扱う否定関連現象として、否定と直接的な関連を持つ否定極性表現に加え、時に関する副詞表現や時の量化などの時制・相の意味論に関する現象、個体量化表現や複数表現に関する現象、取り立てや尺度含意に関する現象などが挙げられる。

## 2. 研究の進捗状況

## (1) 時の副詞、時制・相について

個別の現象については、Kusumoto (2009)、Nishiyama and Jean-Pierre Koenig (2010)と西山(2010)が挙げられる。前者は、これまでの文献調査を踏まえた上で時の副詞節と量化の関係について考察し、副詞節内の個体量化子の広域解釈を副詞節自体の移動で説明する提案を行った。後者は、英語や日本語の時制や相の解釈を談話表示理論の枠組みで研究し、その意味の中核が結果状態であり、それ以外の様々な用法は語用論的に説明されるべきだと主張した。

## (2) 否定の意味について

これまでの文献調査を行うとともに、日本語の用例について、インフォーマント調査やネットでの調査を行った。その結果をふまえ、Kusumoto (2011)では、否定の意味について、形式意味論を用い提案を行った。否定は「何かが存在しないこと」ではなく、「何かが存在しない状態があること」と主張することで、「～うちに」「～間に」などの時の副詞内の否定表現の分布を説明することに成功した。

## (3) 否定極性表現について

タンクレディは、否定極性表現の研究に取り組み、特にその疑問文における分布や意味解釈を取り立ての尺度という観点で分析する理論を提案した。これまで否定極性表現の認可条件として、下方含意を用いた理論が支持されて来たが、疑問文における否定極性表現は下方含意では説明が出来ないまたは困難な典型例であった。タンクレディはこれら過去の理論の問題点を精査するとともに、音韻現象が例文の文法性に関わることを指摘するデータの収集も行った。その結果提案された理論は疑問文を特例とせず、下方含意を用いずに認可条件を一般化しようと試みるものである。

## 3. 現在までの達成度

## ②おおむね順調に進展している。

個別現象に関しては、特に時制の分野では当初の予定以上の成果が出ている。量化、否定極性表現、否定そのものの意味は予定通りに進展している。取り立てや尺度についてそれ自体の研究はやや遅れ気味であるが、全体としては、ほぼ予定通りと言える。

## 4. 今後の研究の推進方策

最終年度は特に個別研究を進めて来た分野の研究成果と否定の意味 (状態性) の相関関係に重点を置く予定である。また、やや遅れ気味の取り立てや尺度に関しては、その考え方を否定極性表現の分布の説明に適用する方向で研究が進んでいる。本研究の目的は、取り立て自体を研究することではないので、この方向で進めていく予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

① Kiyomi Kusumoto, Negation and Stativity, 関西学院大学英米文学 LV, 2011, 284-309, 査読無

② Atsuko Nishiyama and Jean-Pierre Koenig, What is a perfect state? Language 86, 2010, 611-646, 査読有

③ 西山淳子, 推論過程の二つのモデルー「ている」と「た」の解釈より, 立命館言語文化研究, 22, 2010, 129-144, 査読無

④ Kiyomi Kusumoto, Dependencies in Temporal Adjunct Clauses, Proceedings of Semantics and Linguistic Theory 18, 2009, 510-526, 査読無

[学会発表] (計2件)

① Christopher Tancredi, Negative Polarity Items and Question, 意味論研究会, 2011, 2.25, 関西学院大学 (兵庫県)

② Kiyomi Kusumoto, Negation and Stativity, 関西学院大学英米文学会, 2010. 9. 25. 関西学院大学 (兵庫県)